

## 史料閲覧室

防衛研究所戦史研究センターは、平成 28 年 7 月 11 日市谷への移転のため戦史史料の搬出に着手し、史料移送完了の後、史料閲覧室は、9 月 26 日に業務を再開した。

閲覧者は、防衛省正門でなく、敷地北側に位置する加賀門のみからの入出門となる。同門での手続きを経て、ロッカールームの鍵付きのロッカーに所持品を収めた後、史料閲覧室（床面積 183 m<sup>2</sup>）において、史料を閲覧することができる。



史料閲覧室（カウンター右手が小閲覧室 1 の入口）

移転後、閲覧者は、いわゆる青焼と称される図面等の技術関係史料、及び簿冊全体にわたって複写が可能である公文書、私文書のいずれについてもデジタルカメラ等で撮影できる。これは閲覧利用上、大きな改善点であり、史料閲覧室内南西側の小閲覧室 1（8 m<sup>2</sup>）において、1 回あたり 30 分以内で史料を撮影することが可能である。なお、隣接する小閲覧室 2（8 m<sup>2</sup>）は主に取材対応のために設けたスペースである。

移転を機に、史料閲覧室に隣接するレファレンス室（21 m<sup>2</sup>）を新たに設け、相談者とは同室内において対応するため、閲覧環境もより静穏に保たれている。

## 史料庫

史料庫は、地下2階及び1階（いずれも床面積560 m<sup>2</sup>）、地上1階（226 m<sup>2</sup>）及び2階（867 m<sup>2</sup>）の、のべ4階から成り立っている。

地下2階は陸軍史料及び地図史料、地下1階は海軍史料及び陸軍史料の一部、地上1階は軍事関係和書、2階は洋書と軍事関係以外の和書を主に配架している。



史料庫内（地下2階）

庫内においては、気温摂氏22度、湿度55パーセント前後を維持し、各階の天井には、全てセンサーライトを備え付け、立入者がいない際には自動消灯し、史料の保存に配慮している。土足での庫内への立入は厳禁である。全ての史料及び図書は、庫内において大小6種類のサイズからなる中性紙箱に収納され、保存に万全を期している。中性紙箱は、総計で約12,900箱にのぼる。